※ 教会CS「新しい いずみのひろば 」はぜひ、家族の人と一緒に読んでください。

いずみのひろば

2026年10月号
日本基督教団泉教会
NO,572 教会学校



「かしこよりきたりて、生ける者と死ねる者とをさばきたまわん」

マタイによる福音書　25章31～46節

この世には終わりがある、と聖書は語っています。

その終わりの時に、イエスさまは、かしこ（とおく）から、やってきて、そして人をさばくのです。

その時に生きている人だけでなく、すでに死んでしまった人もさばかれるんだって。

悪いこと、うそをついたこと、人に冷たくしたこと、いいかげんにごまかしてきたこと、

自分のしてきたいろんな罪が、イエスさまの前で、あきらかにされるのです。

それは、とても恐ろしくて、そして消えてしまいたいと思うぐらい、はずかしいことだと思います。

その時、イエスさまは人をひつじ組とやぎ組にわける、と聖書に書いてあります。

ひつじ組は天国に行けて、やぎ組は地獄行き。



ああ、、、私はやぎ組だな、、、って、誰もが思いますね。

でも、わたしたちはイエスさまのされたこと、イエスさまの言葉を知っています。



イエスさまは、「わたしを信じる者は、永遠の命を得る」と言われました。

それは天国に行ける、ってことです。

イエスさまは、たくさんの悪いことをした私に向かって、「あなたの罪は、わたしが十字架にかかって

ゆるしてあげたよ。だから大丈夫。こっちにおいで！」とひつじ組にまねいてくださるのです。

教会に来ると、「わたしたちは罪人だ」、ってみんなが言います。

「わたしたちの罪のために、イエスさまは十字架にかかった」、って何回も聞きます。

その意味が心からわかって、喜びに満たされるのが、終わりの時なのかもしれません。

終わりの時は、おそろしいさばきの時であり、同時にイエスさまにゆるされる喜びの時です。

（おはなし　こばやしもとこ先生）